

<「知るっば！久留米」 令和3年12月30日(木) 12:30~放送分>

みみて楽しむ久留米の昔話 ～第5回～ 「筑紫楽」

<ゲスト：久留米シティプラザ事業制作課 竹下久美子さん>

《音源：みみて楽しむ久留米のむかし話7》

『筑紫楽(つくしがく)の始まり』

筑後地方には、古くから筑紫楽、筑後音楽と言われる音楽が伝えられ、親しまれてきました。戦いに敗れた平家の侍たちは高良山にもやってきましたが、後を追いかけてきた源氏の侍と激しい戦いとなり、高良山から筑後川まで追い詰められ、とうとう滅んでしまいました。

そして、その後に筑後川の平家河童となってそこに住み着いたとされています。

ところがあるとき、大変なことが起こったのです。

一匹の平家河童が、草野の殿様のところにやってきました。

「実は、今年になってから見たこつもなか茶色の河童が大勢攻めてまいりました。

そして、たくさんのかっぱが殺されたりけがをしたりしました。

私たちにはとても太刀打ちできません。」

「そりゃこまったこつになったのう。助けてやりたいが、一体どうしたら良いかのう。」

「どうかキュウリばかごに十杯ばかり、

明日の昼までに巨勢川に投げ込んでいただけないでしょうか……」

「そんならいのこつでよかなら、やすかこつたい。早速そうしてやろう」

…ドボーンドボーン(効果音)

すると、その夕方、筑後川の水がにわかに濁りはじめ、

高波がたって戦のときのよな声が聞こえてきました。

しかし、夜中にはその声がぴたっとやみ、静かになってしまいました。

そこへ、大勢の河童たちが連れてやってきました。

河童たちは、笛、太鼓、鉦(かね)、笙(しょう)などの楽器でにぎやかに合奏しながらお礼の踊りを舞ったりしました。

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です！

今月は、久留米シティプラザが無料動画配信サイト(YouTube)で配信中の

『みみて楽しむ久留米の昔話』をテーマにお送りしています。ゲストはこの方です。

ゲスト：竹下さん(以下「竹下」)

こんにちは。久留米シティプラザ事業制作課の竹下久美子です。

よろしくお願いします。

坂本 第5回目、いよいよ最終回となってしまいました名残惜しいんですが、今回は、『筑紫楽の始まり』をテーマにお送りします。今週はかっぱのお話で、くるっばの祖先は平家の方々だったというお話になっていきます。

竹下 くるっばの紹介ページにも、平家の大将・平清盛が巨瀬入道という名の河童になったという記述が、久留米藩の文献(地誌・1675年)にもあるとされています。清盛が巨瀬川の主になって、年に1回ほど、妻の二位の尼・時子と会うとき、川は大荒れして大洪水になるのだとか。愛妻に会うのに、荒れるんですね(笑)

坂本 筑紫次郎、筑後川は暴れ川で有名ですからね。その支流も同じくということなんだろうと思います。

竹下 実は昨年、水天宮に関する冊子を出版されている、小柳さんという歴史研究家の方とまち歩きをしました。田主丸にある庄前神社(しょうのまえじんじゃ)の社殿には、平清盛と、河童の祖先といわれる九千坊(くせんぼう)の木像がありました。また、この地に逃げ延びてきた二位の尼が奉納したとされる手鏡が伝わっていたんですね。残念ながら実物は見る事が出来ないままでしたが。

坂本 田主丸には、河童伝説が多く伝わっていて、町のいたる所に河童の石像がありますよ。まさにかっぱ天国ということでございます。

竹下 田主丸エリアの神社は、ほかにも平家ゆかりの方と河童と一緒に祀っている神社がいくつかありました。私たちが行ったのは、熊野神社境内の池野神社と月読(つきよみ)神社境内の馬場瀬(ばばのせ)神社でしたが、いずれも安徳天皇・平清盛・二位の尼と一緒に九千坊が祀られていました。草野の殿様は、平家から源氏に寝返ったのに、昔話の中では仲良くしていましたよね。

坂本 平家の落ち武者が河童になるというお話なんですが、何を隠そう私も20代のころに市民でお芝居をやるという企画があって、河童になった平家の侍を演じたことがあるんです。「久留米風土記 河童武者伝」という伝記物のお芝居で、安徳天皇や二位の尼もできました。その河童たちが、久留米の地を鎮めていくというお話でした。

竹下 その平家河童に草野の殿様が教えてもらったのが、エンディングで流れていた草野風流(くさのふりゅう)です。草野風流は、田主丸のスサノオ神社で行われている伝統的な祭事で、1197年、竹井城主の草野太郎長平が天下泰平、五穀豊穰を祈ったのが始まりといわれています。

坂本 1197年というと鎌倉時代、平家が滅亡して10年以上たっているということになりますね。

竹下 その10年の間に河童になったんでしょうね。

実は、先ほど流れていた草野風流の音楽は、実際に数年前のお祭りで演奏されたものなんです。たまたま草野在住のスタッフがいて、お子さんたちの演奏を使用させていただけないか相談したところ快諾いただきました。

坂本 この草野風流が、筑紫楽の始まりになったとされていますが、筑紫楽というのはどういったものなんでしょうか？

竹下 雅楽の一種ということで、広辞苑によると、「平安中期から九州北部の、主に寺院で奏されていた雅楽の管弦合奏曲」となっています。後に、善導寺の僧・賢順(けんじゅん)が作りだした筑紫箏(つくしごと)の母体にもなったともいわれています。

坂本 「こと」には箏と琴があって、これは箏曲(そうきょく)ですね。賢順は私が若いころ「ふるさとの肖像」という先達を紹介した本を書きましたので、そのときに勉強させてもらいました。私が似顔絵やいわれも書いたんで、ちょっと懐かしく思い出しました。

竹下 はるか昔の、写真も坂本さんのように上手な似顔絵もない時代に、誰か一人の人間を特定できるものって、その人の顔を知っている身近な人間の証言だけですよね。身代わりや影武者って、実はよくあることだったんじゃないかなと思うんです。地元に残る史跡や文化、由来は諸説ありますが、これだけ安徳天皇にまつわる伝承がたくさんあると、安徳天皇生存説も信じたくなくなってしまいます。久留米のおかし話を題材にしたオーディオドラマは、全部で10話ありますので、ぜひ一度、無料動画サイトでお聞きになっていただけましたら幸いです。

坂本 あっという間に1ヵ月が過ぎてしまいました。

竹下さん、一か月の間、興味深いお話をありがとうございました。

他にもいろいろな昔話が、久留米シティプラザのホームページやYouTubeサイトにありますので、ぜひ聞いてみてください。

来月は『地場産くるめ』をテーマにお届けします。

お楽しみに。